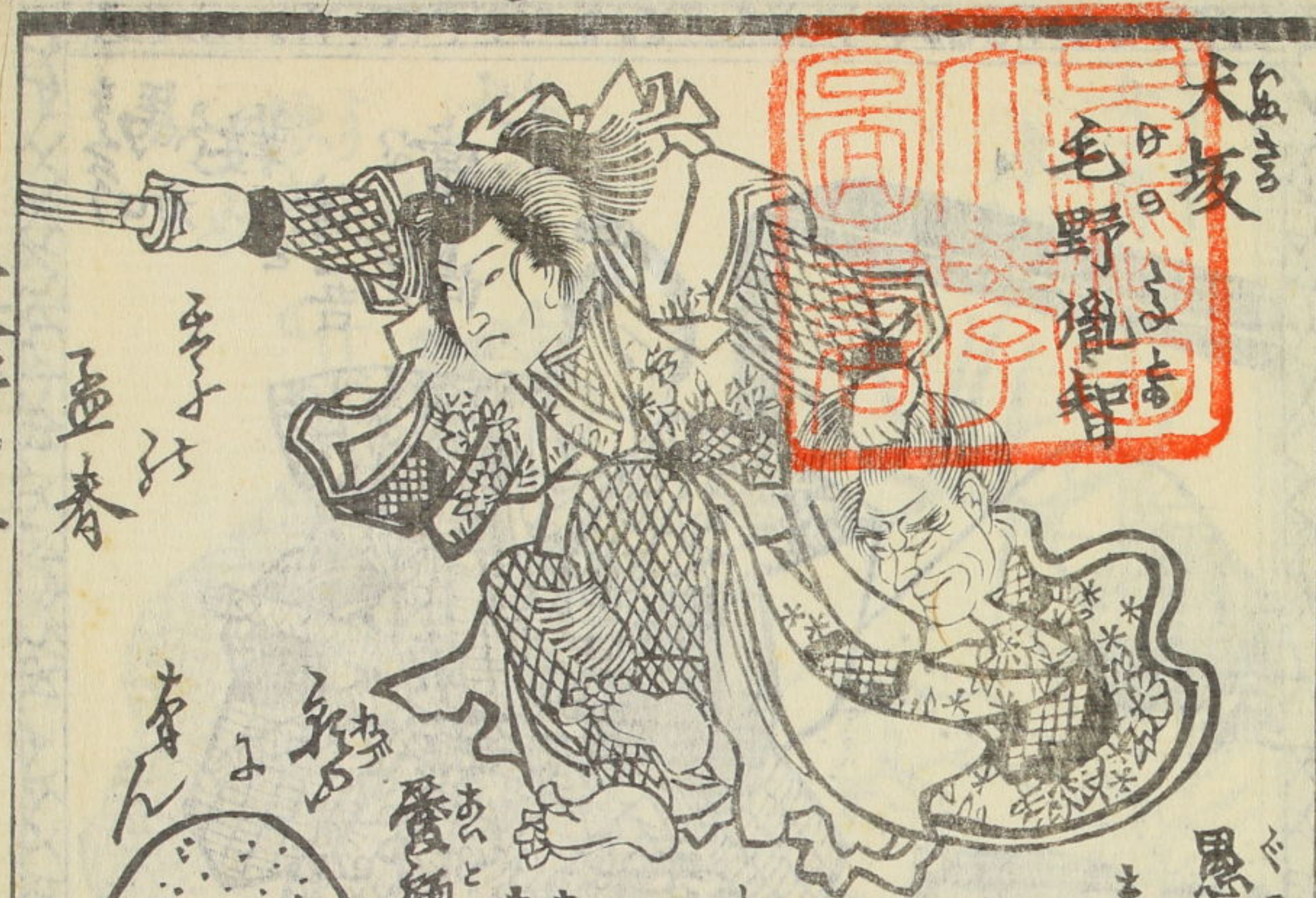


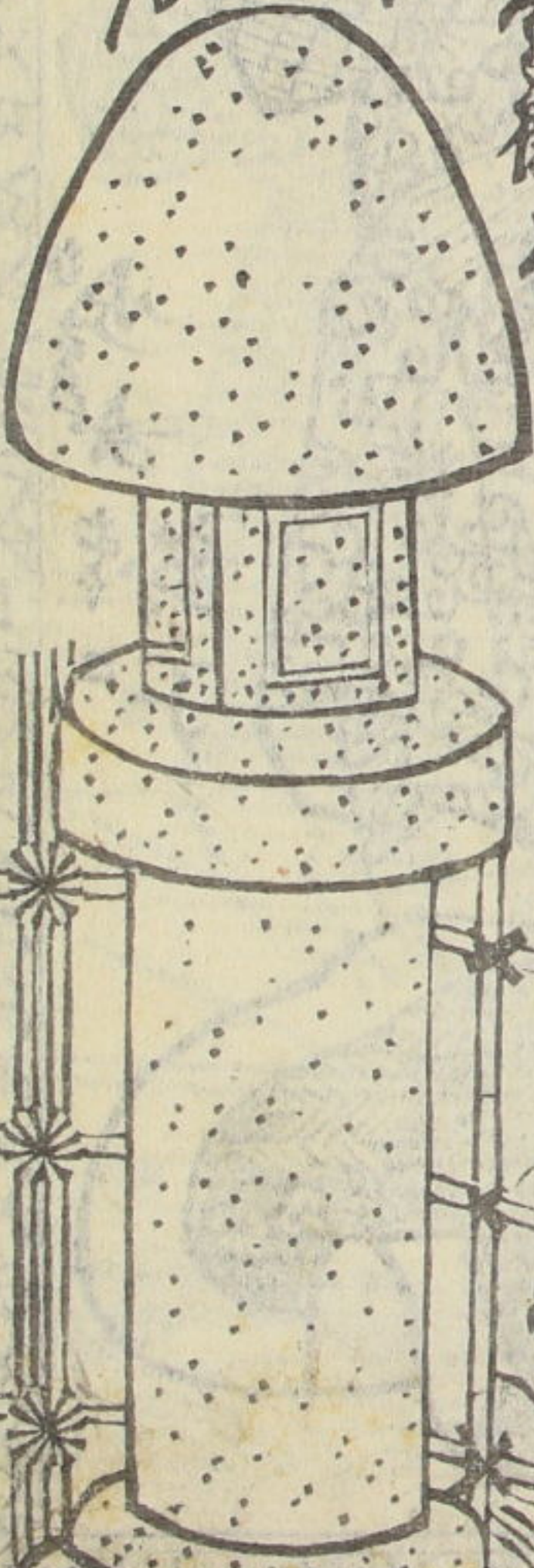
^ 13
3701
14





大坂
毛野
智

五子
孟春



養顏衣

愚公が山をたふすの如く
孫や孫の業は揚子遷り
まの偏敷はありの如く
十之段稍僧智の徳也
はたけのまの八宮の
里より鏡の
庚申山梅の
変化を遠きより
作者の
意を彫刻
を
為永
春水起馬

へ13
3701
14



大田のりつふ
 下つふ日野野
 大田のりつふ
 小文を
 下つふ日野野
 大田のりつふ
 小文を
 下つふ日野野
 大田のりつふ
 小文を
 下つふ日野野

大田のりつふ
 小文を
 下つふ日野野
 大田のりつふ
 小文を
 下つふ日野野



大田のりつふ
 小文を
 下つふ日野野
 大田のりつふ
 小文を
 下つふ日野野

大田のりつふ
 小文を
 下つふ日野野

大田のりつふ
 小文を
 下つふ日野野
 大田のりつふ
 小文を
 下つふ日野野



大田のりつふ
 小文を
 下つふ日野野
 大田のりつふ
 小文を
 下つふ日野野

大田のりつふ
 小文を
 下つふ日野野
 大田のりつふ
 小文を
 下つふ日野野

大田のりつふ
 小文を
 下つふ日野野

大伝いさら
 つねをさ
 おげあ
 天田の
 ま

ろりそのくた
 大伝いさら
 つねをさ
 おげあ
 天田の
 ま

大伝いさら
 つねをさ
 おげあ
 天田の
 ま



おのゝつぐけりそのこゝろの上は
おのゝつぐけりそのこゝろの上は

つたまのひびのみ
おのゝつぐけりそのこゝろの上は
おのゝつぐけりそのこゝろの上は



あやうひとりのふろさるたりし由
あやうひとりのふろさるたりし由
あやうひとりのふろさるたりし由

おのゝつぐけりそのこゝろの上は
おのゝつぐけりそのこゝろの上は
おのゝつぐけりそのこゝろの上は



おのゝつぐけりそのこゝろの上は
おのゝつぐけりそのこゝろの上は
おのゝつぐけりそのこゝろの上は

此の事は... 大傳十五... 此の事は... 大傳十五... 此の事は... 大傳十五... 此の事は... 大傳十五... 此の事は... 大傳十五... 此の事は... 大傳十五...

大傳十五



大傳十五

大傳十五

國芳画春水作



春水の作
 國芳の画
 女はちきり
 の衣を着
 るに
 大正の
 時
 代
 の
 風
 情
 を
 写
 真
 した
 こと
 が
 見
 ら
 れ
 る

春水の作
 國芳の画
 女はちきり
 の衣を着
 るに
 大正の
 時
 代
 の
 風
 情
 を
 写
 真
 した
 こと
 が
 見
 ら
 れ
 る

春水の作
 國芳の画
 女はちきり
 の衣を着
 るに
 大正の
 時
 代
 の
 風
 情
 を
 写
 真
 した
 こと
 が
 見
 ら
 れ
 る

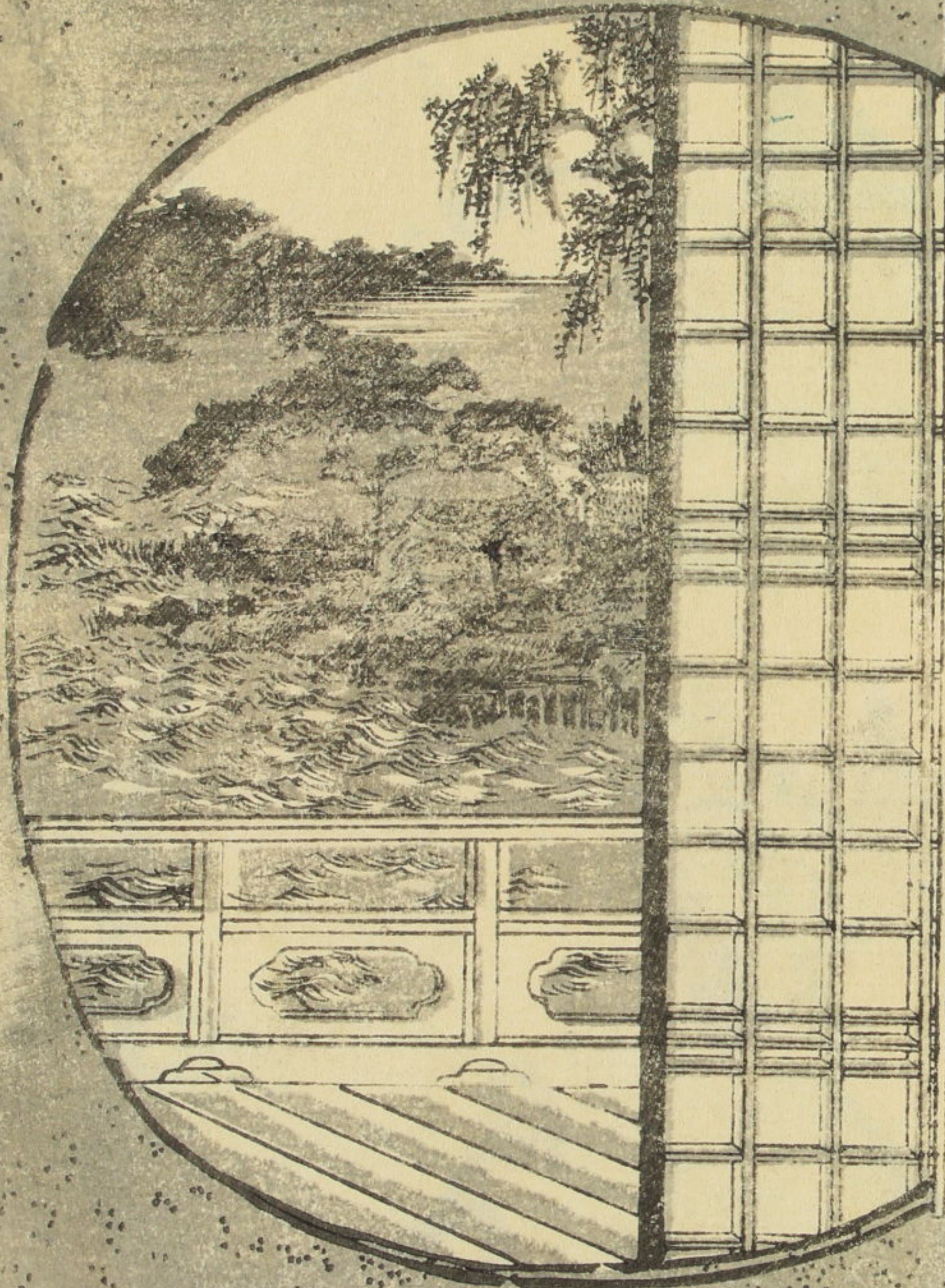
春水の作
 國芳の画
 女はちきり
 の衣を着
 るに
 大正の
 時
 代
 の
 風
 情
 を
 写
 真
 した
 こと
 が
 見
 ら
 れ
 る

假名遣大傳

假名遣大傳
 春水の作
 國芳の画
 女はちきり
 の衣を着
 るに
 大正の
 時
 代
 の
 風
 情
 を
 写
 真
 した
 こと
 が
 見
 ら
 れ
 る

十五篇

八犬傳



なつこころのうらみ



紅雲園

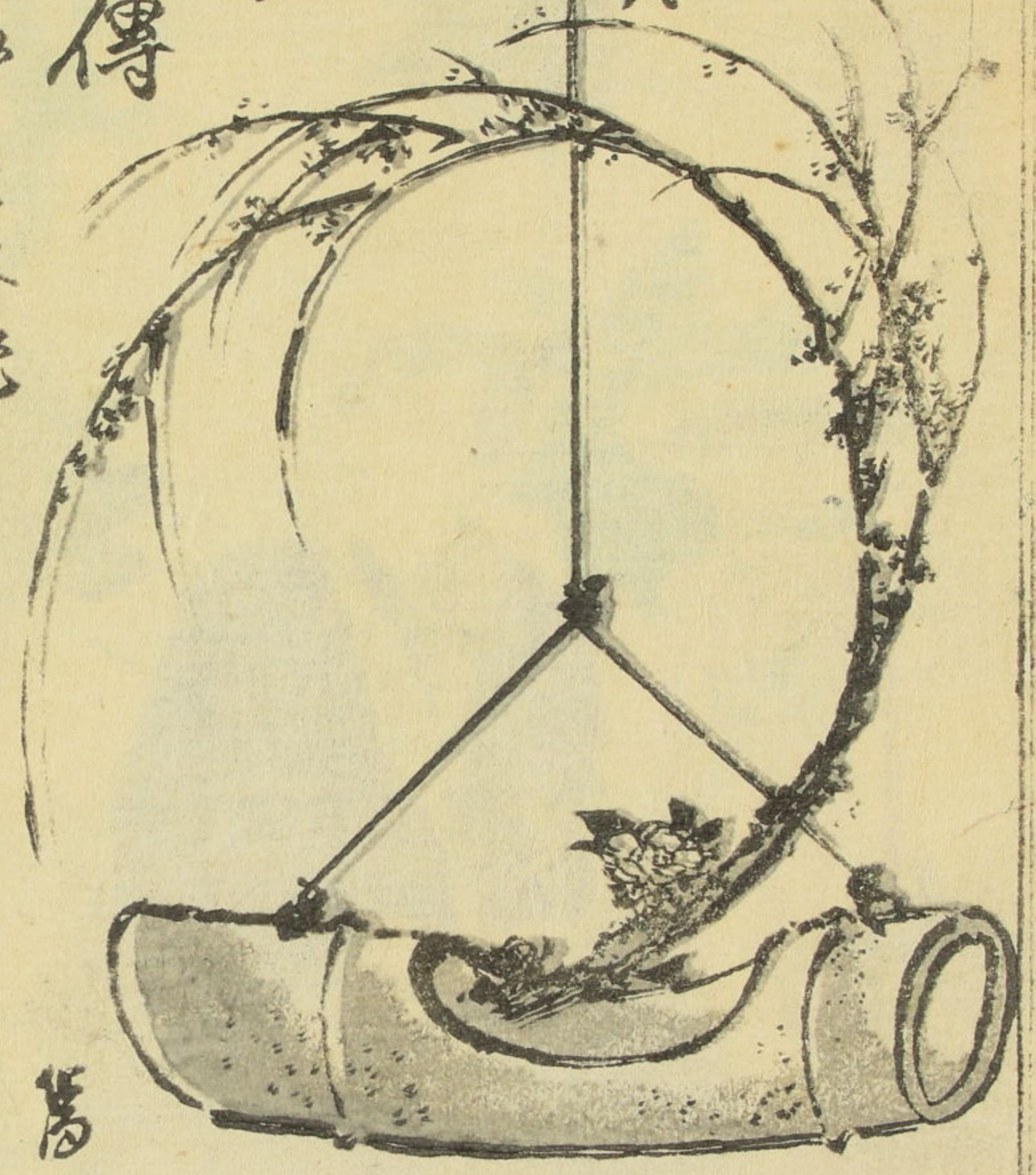






二の巻
 二の巻
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十

假名、漢、大、傳



為永美水化
 (勇名國芳畫)

十五卷下
 十五

文溪堂

壽林

萬一
 萬一

Handwritten Japanese text in vertical columns, likely a narrative or dialogue. The text is densely packed and covers most of the left page.

Vertical text on the left margin of the left page.



Handwritten Japanese text in vertical columns, continuing the narrative or dialogue. The text is densely packed and covers most of the right page.

Vertical text on the right margin of the right page.

Bottom text on the right page, possibly a signature or a specific note.



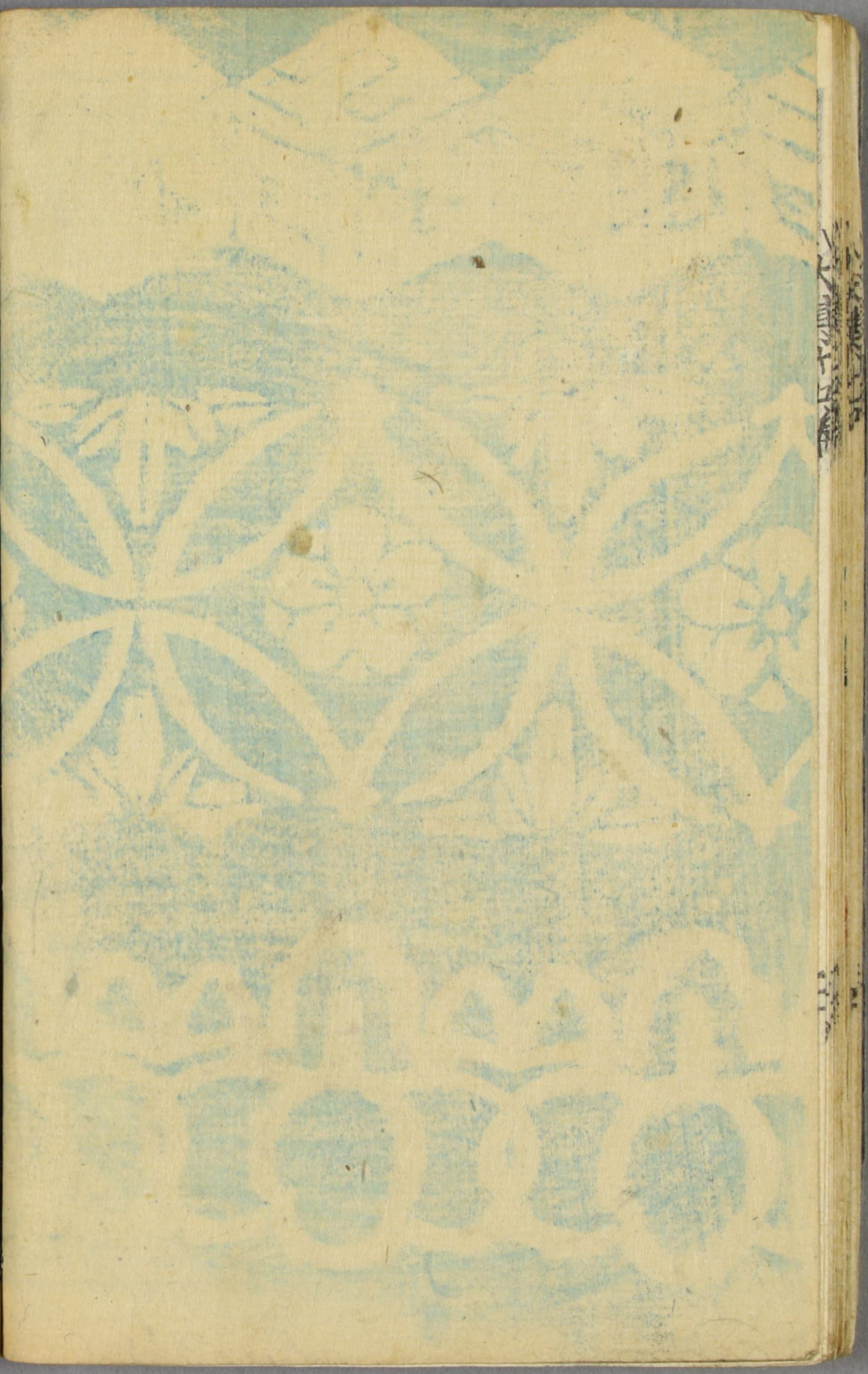
西施が頼る東施も初見の衿馬があつて青蠟もやんぐ
 大都のまをわかせが坂に車ひきつり引れど。ふんはら
 んのとやしり書。動らぬ筆も子入れを。文後澄る
 腐へた送ふの如の程腕に勝たる重荷の上の重荷
 言者左と小附を添へて十六編二は数よりのこれやも
 蕎麦より余松伸を死に作者の鼻毛の長き春の
 笑ひを備えと又の色社をわらしふの月よ名高村の
 酒を。あつてはは敷布を急ぐはまを。

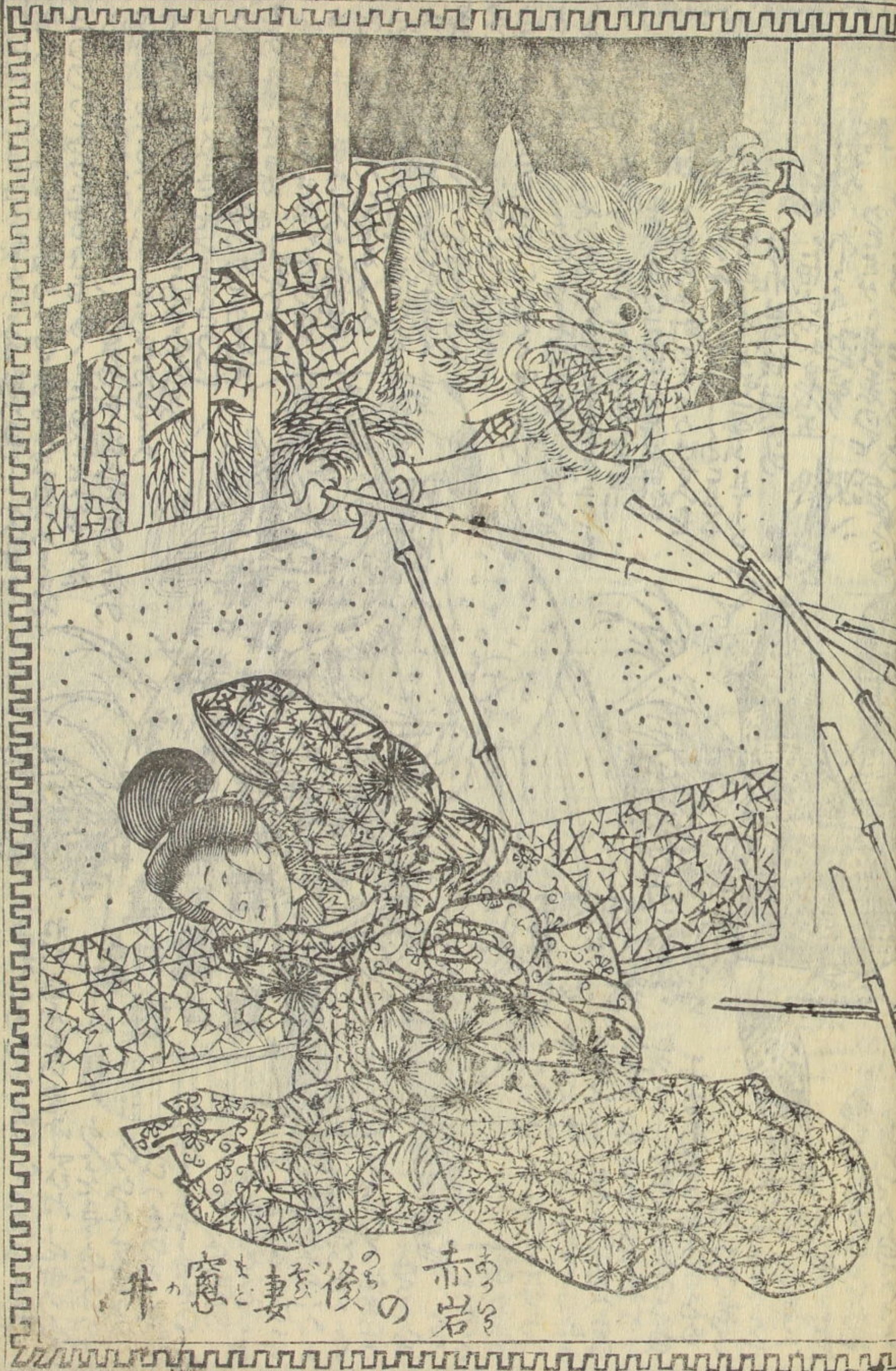
嘉永成福刺成
 同 亥春書見

為永春水誌

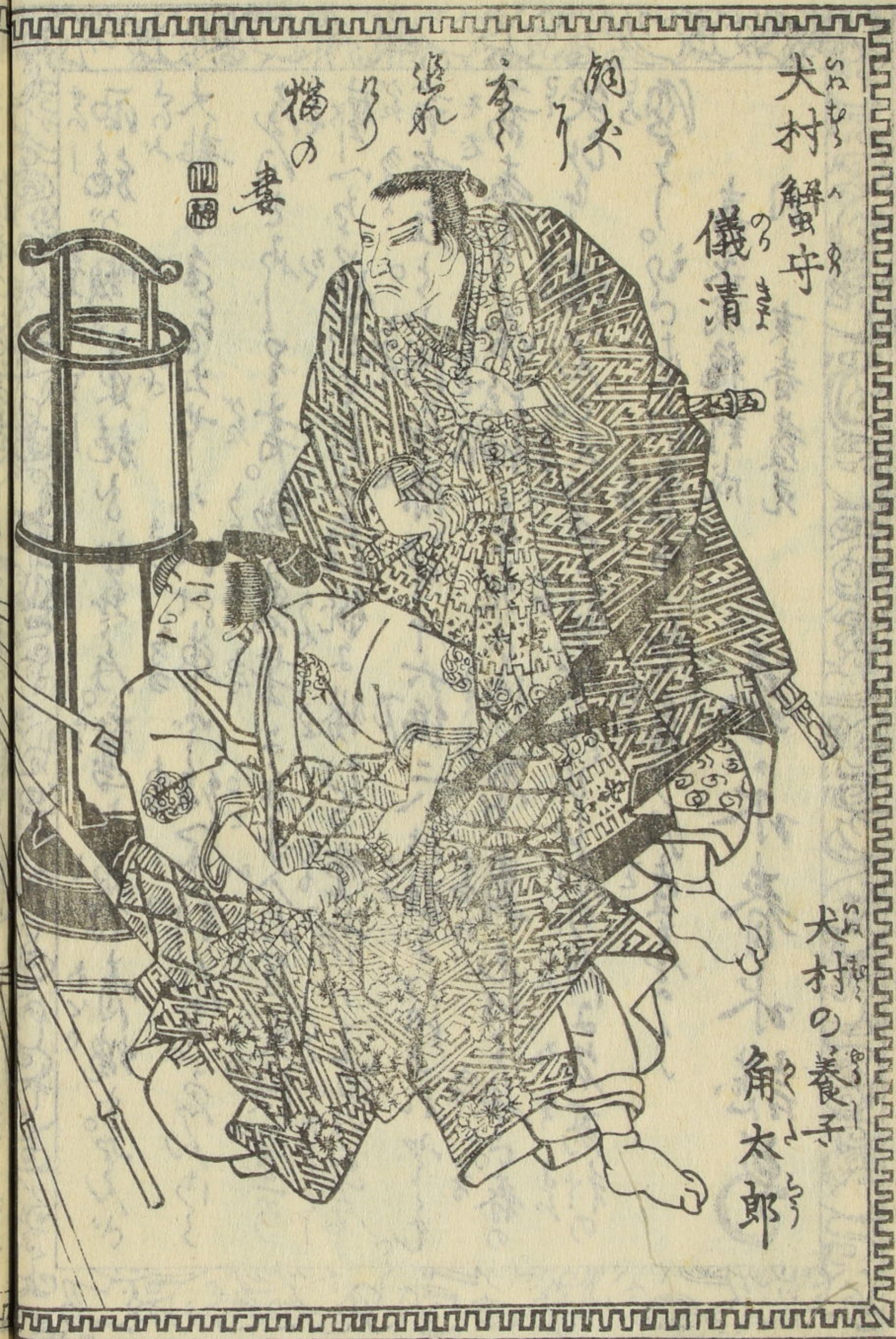
本草十編

一





赤岩の後の妻の窓井



大角の養子 儀清

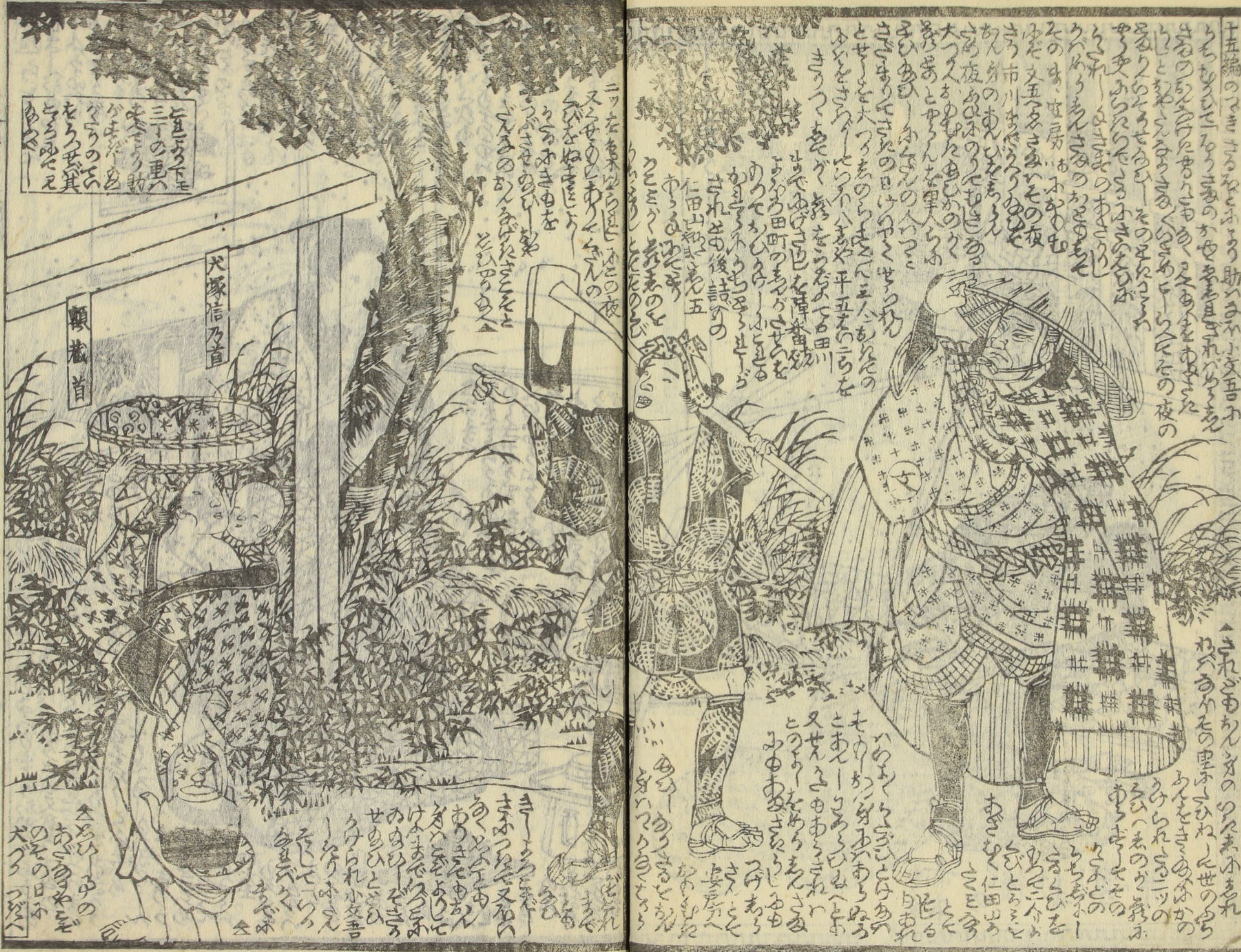
儀清

犬村の養子 角太郎

十五編のつきさるやとふより助いまは下五吾お
らちむらさきさるやとふより助いまは下五吾お
はるのちんさつたあふもあふ又あふをわあした
らとあふさるやとふより助いまは下五吾お
あふさるやとふより助いまは下五吾お
あふさるやとふより助いまは下五吾お
あふさるやとふより助いまは下五吾お

そのまはさるやとふより助いまは下五吾お
あふさるやとふより助いまは下五吾お
あふさるやとふより助いまは下五吾お
あふさるやとふより助いまは下五吾お
あふさるやとふより助いまは下五吾お
あふさるやとふより助いまは下五吾お

あふさるやとふより助いまは下五吾お
あふさるやとふより助いまは下五吾お
あふさるやとふより助いまは下五吾お
あふさるやとふより助いまは下五吾お
あふさるやとふより助いまは下五吾お
あふさるやとふより助いまは下五吾お



三丁の車
三丁の車
三丁の車
三丁の車
三丁の車
三丁の車

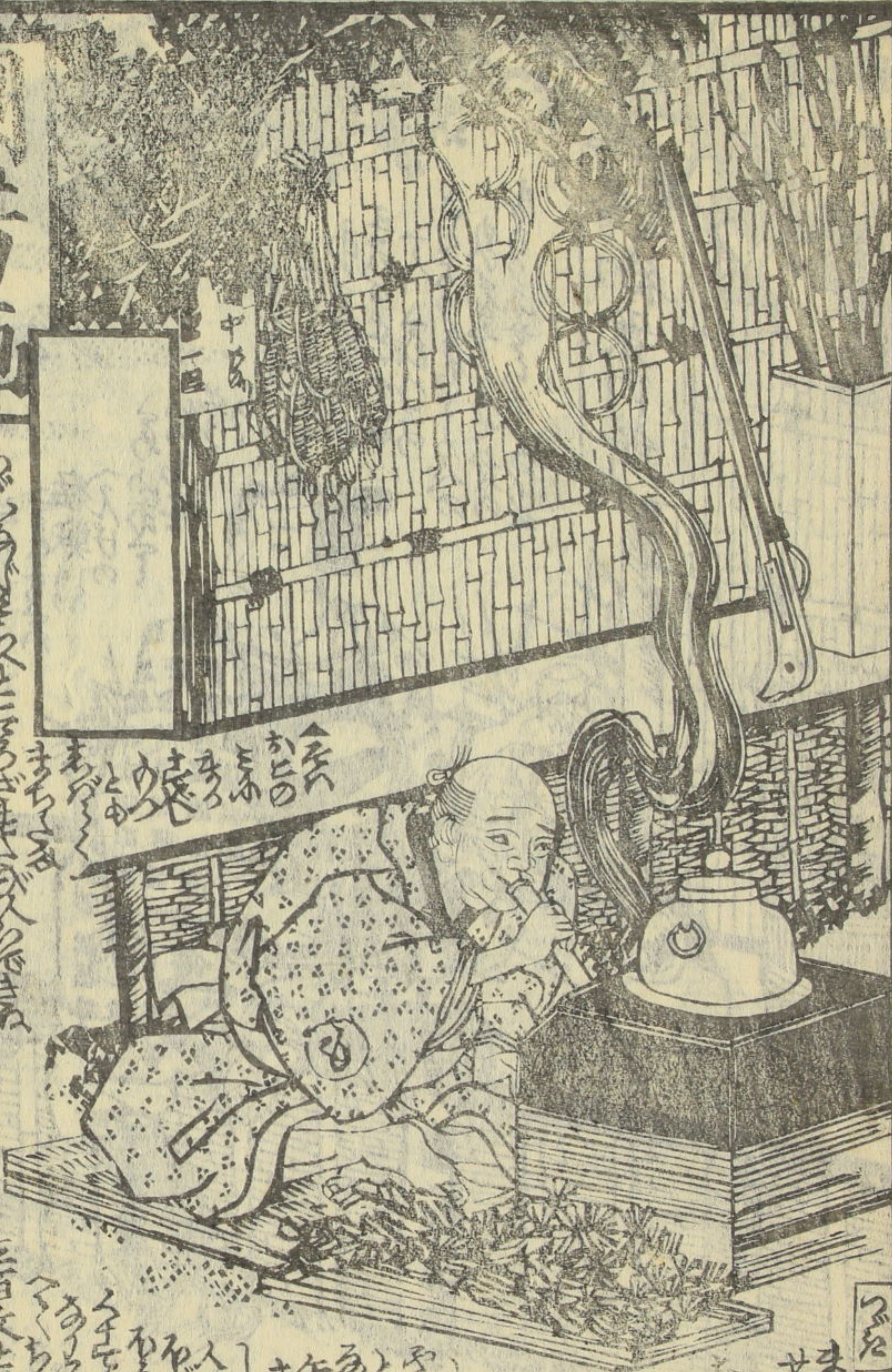
三丁の車
三丁の車
三丁の車
三丁の車
三丁の車
三丁の車

犬塚信乃首
頼藏首

あふさるやとふより助いまは下五吾お
あふさるやとふより助いまは下五吾お
あふさるやとふより助いまは下五吾お
あふさるやとふより助いまは下五吾お
あふさるやとふより助いまは下五吾お
あふさるやとふより助いまは下五吾お

あふさるやとふより助いまは下五吾お
あふさるやとふより助いまは下五吾お
あふさるやとふより助いまは下五吾お
あふさるやとふより助いまは下五吾お
あふさるやとふより助いまは下五吾お
あふさるやとふより助いまは下五吾お

國芳画



わがわが... 三の巻八

つた... 三の巻八

假名讀入大士傳

自初編

三十七巻

Handwritten text in vertical columns, likely a preface or commentary related to the '假名讀入大士傳'.

加那與美

八犬傳笈

十六編上

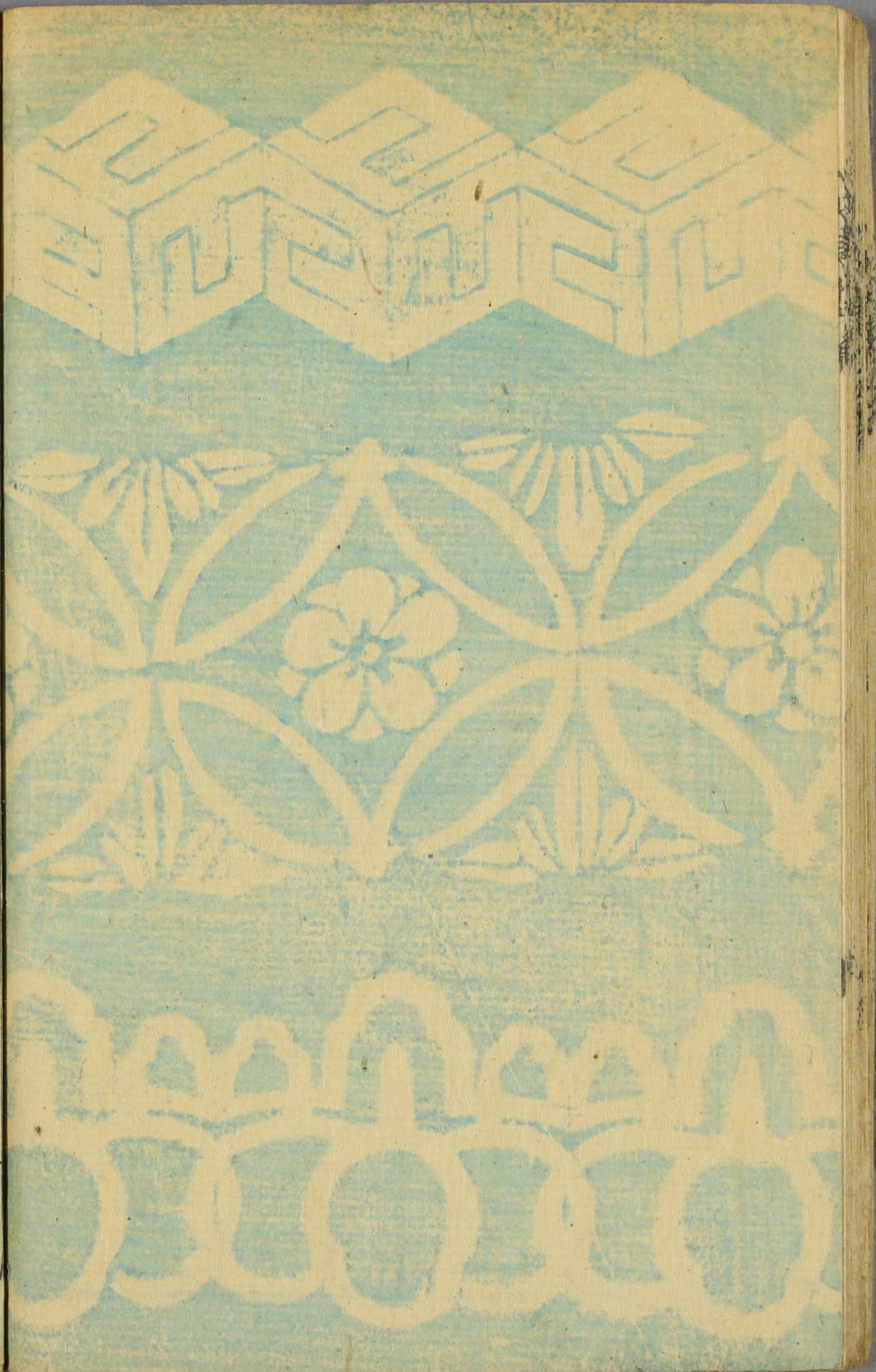
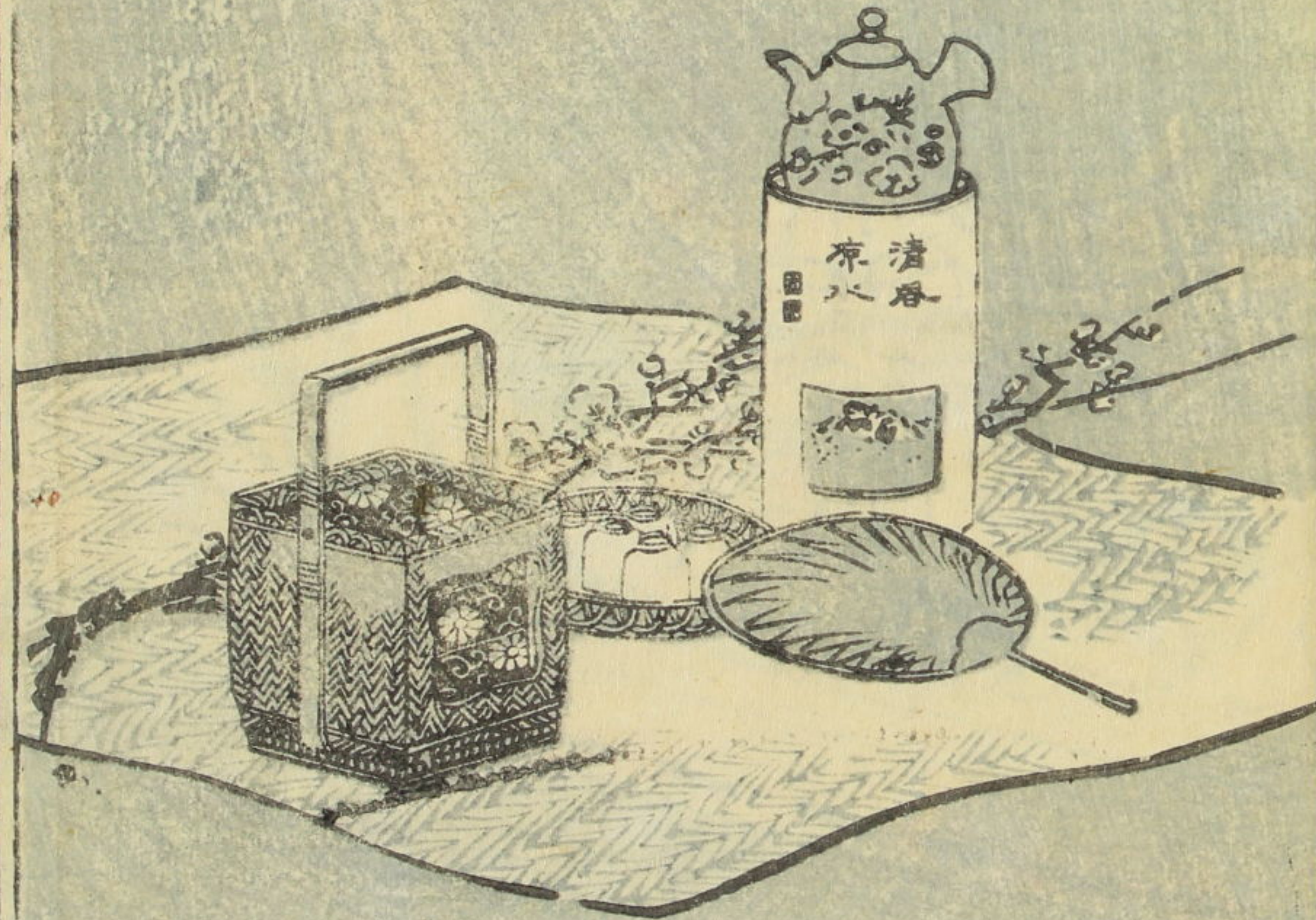
二卷

高永春水作

一高永春水作

嘉永五壬子春

文選堂版



爲永春水作
一勇齋國芳画



下冊

八犬傳十六巻



上冊

つたまの石ころ
みづのうら
山をたぐり
目をかざり
くさばり
あざり



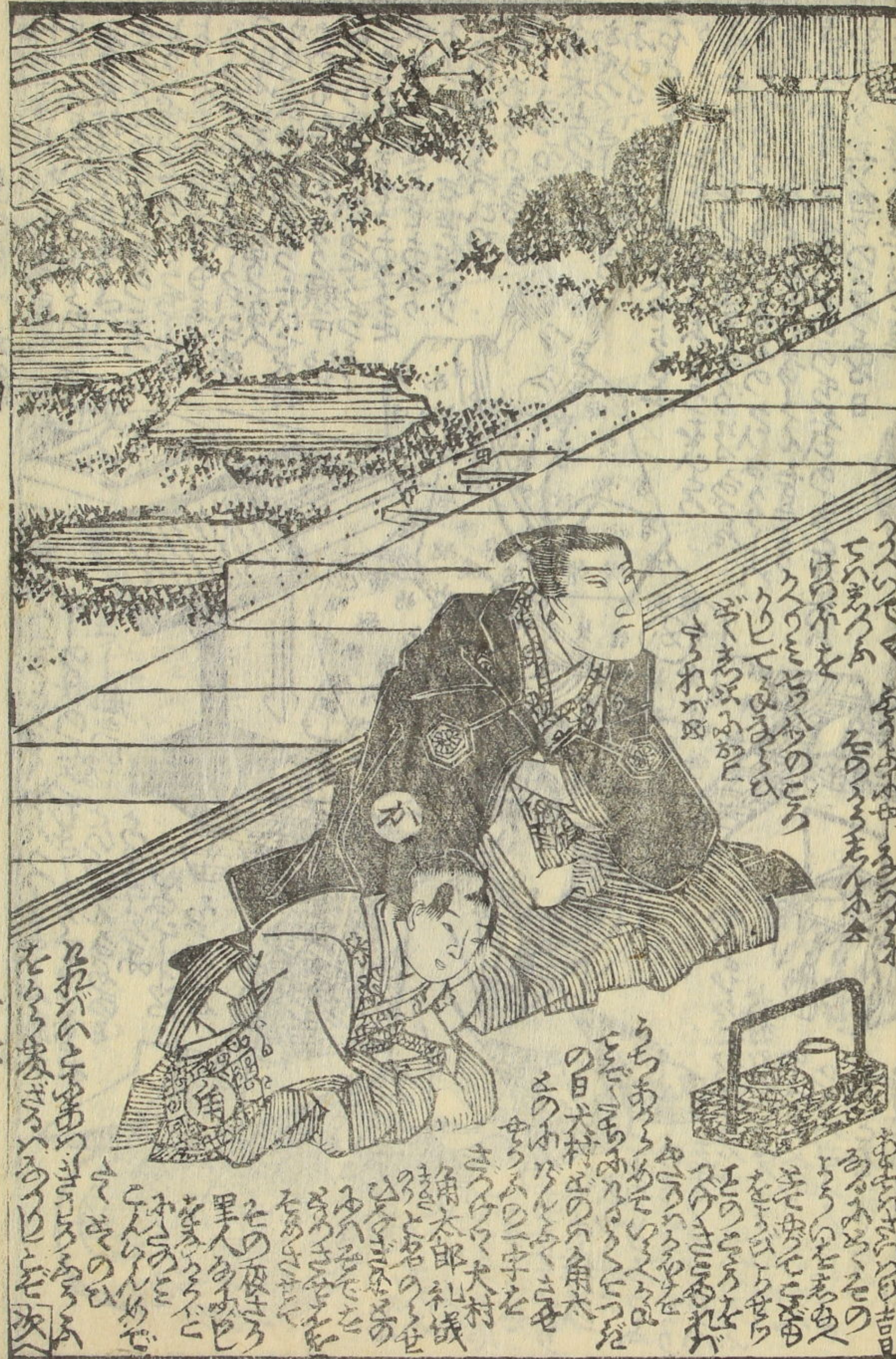
あまのこ
石ころの
くさばり
あざり
くさばり
あざり
くさばり
あざり
くさばり
あざり

あまのこ
石ころの
くさばり
あざり
くさばり
あざり
くさばり
あざり
くさばり
あざり

あまのこ
石ころの
くさばり
あざり
くさばり
あざり
くさばり
あざり
くさばり
あざり

天保十六年

下三



ふういで
 けいすを
 うらまはすの
 けいすを
 うらまはすの
 けいすを
 うらまはすの

角太郎の
 名は
 角太郎
 の
 名は
 角太郎

角太郎

角太郎



この
 角太郎
 の
 名は
 角太郎
 の
 名は
 角太郎

角太郎
 の
 名は
 角太郎
 の
 名は
 角太郎

角太郎

角太郎

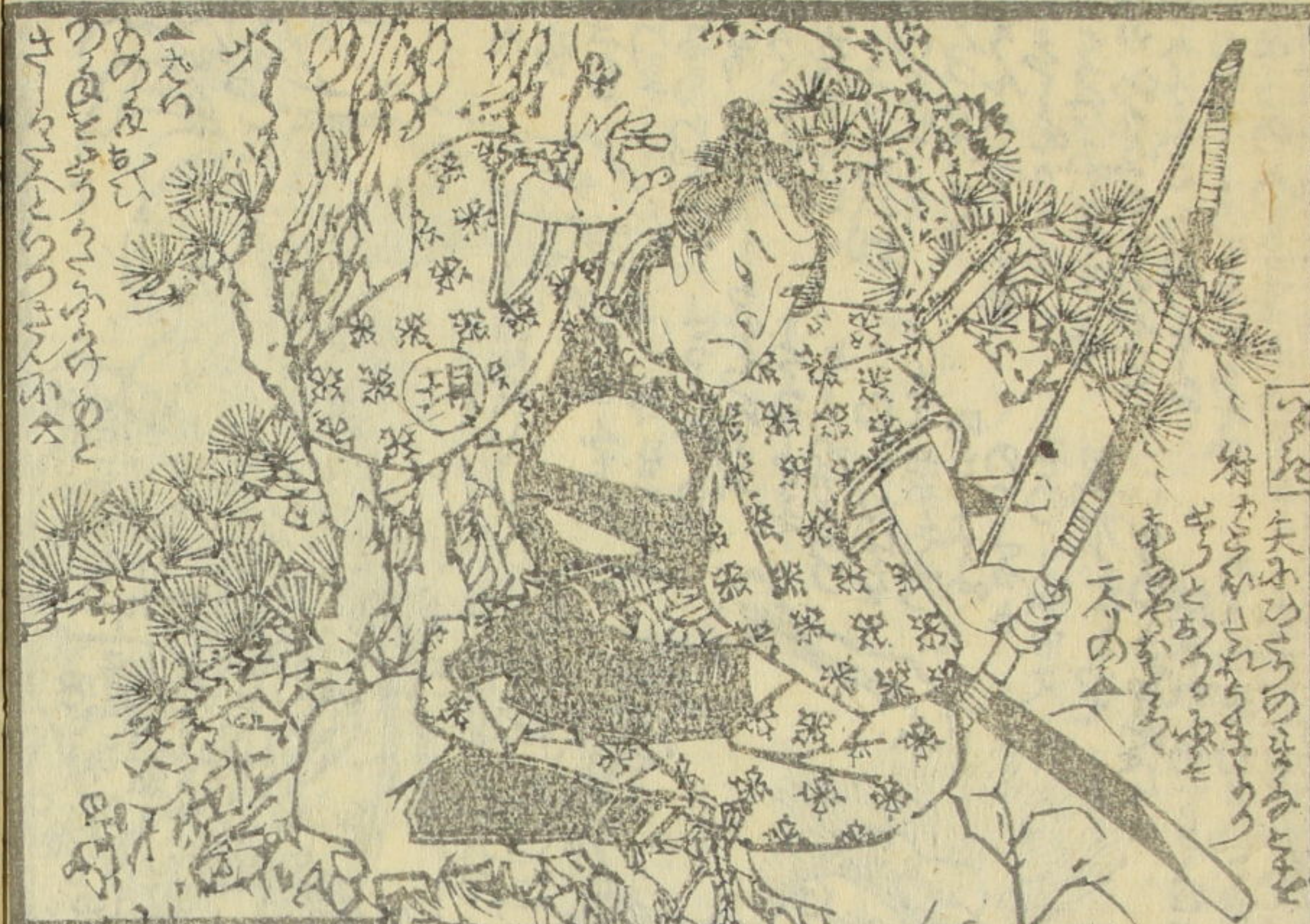


名手... 大村...
 今更...
 赤岩...
 け...
 今更...
 赤岩...
 け...



赤岩...
 今更...
 赤岩...
 け...
 今更...
 赤岩...
 け...

大傳
 御齋
 屋吉助版



一勇齋國芳画
 夫のひらのまきまき
 けしとあるるまき
 二六の△



做名續
八丈傳

十六番



有永

美水作

一勇高

國芳画

文彦中

上梅

印

松川
景之丞
印